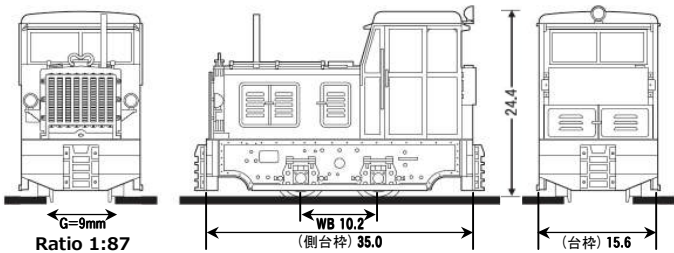


第14回 軽便鉄道模型祭記念
熊本・内大臣の野村式DL
 (土佐造船鉄工所4.8t)
 車体エッチング板〔HO Scale〕



(C) 軽便鉄道模型祭事務局 2018

メール keibenfes@gmail.com 公式ブログ <http://keibenfes.exblog.jp/>
 設計・製造：アルモデル 資料協力：古川邦雄 西 裕之

このたびは第14回軽便鉄道模型祭記念エッチング板をお買い上げいただきありがとうございます。

今回の題材は、熊本城に隣接する『監物台樹木園』に今も保存されている森林鉄道のDLで、昭和36年に内大臣森林鉄道に導入、本線の廃止後は鴨猪谷支線に転じ、同線の廃止(昭和42/1967年頃)まで活躍したとされているものです。

メーカーの『土佐造船鉄工所』は、全国各地の森林鉄道、中でも四国や九州に多くの機関車を送り込んだ『野村組工作所』の後身に当たる会社。保存されている機体は、ボンネット側面や屋根形状などにやや近代的な意匠が見られるものの、両端の切れ上がった独特の形状の板台枠や、自動車のステアリングホイールと見紛うキャブ内のブレーキハンドルに“野村組”の特徴が色濃く表れています。

当製品は車体の基本部分のみのキットであり、動力・各種ディテールは“おまかせ”となりますが、ぜひ各自の創意工夫をお楽しみ下さい。

・パーツの切り離しは、歪みが出ないように注意深く行ってください。板厚は0.3となっており、相応にデリケートな扱いが必要です。工具はマイクロタイプのニッパー、エッチング鉋、爪切りを推奨。

・板の折り曲げの際、スジ彫りが内側とならないケースもありますので注意して下さい。

・組立にはハンダ付を推奨しますが、場所によっては瞬間接着剤/エポキシで代用しても差支えありません。

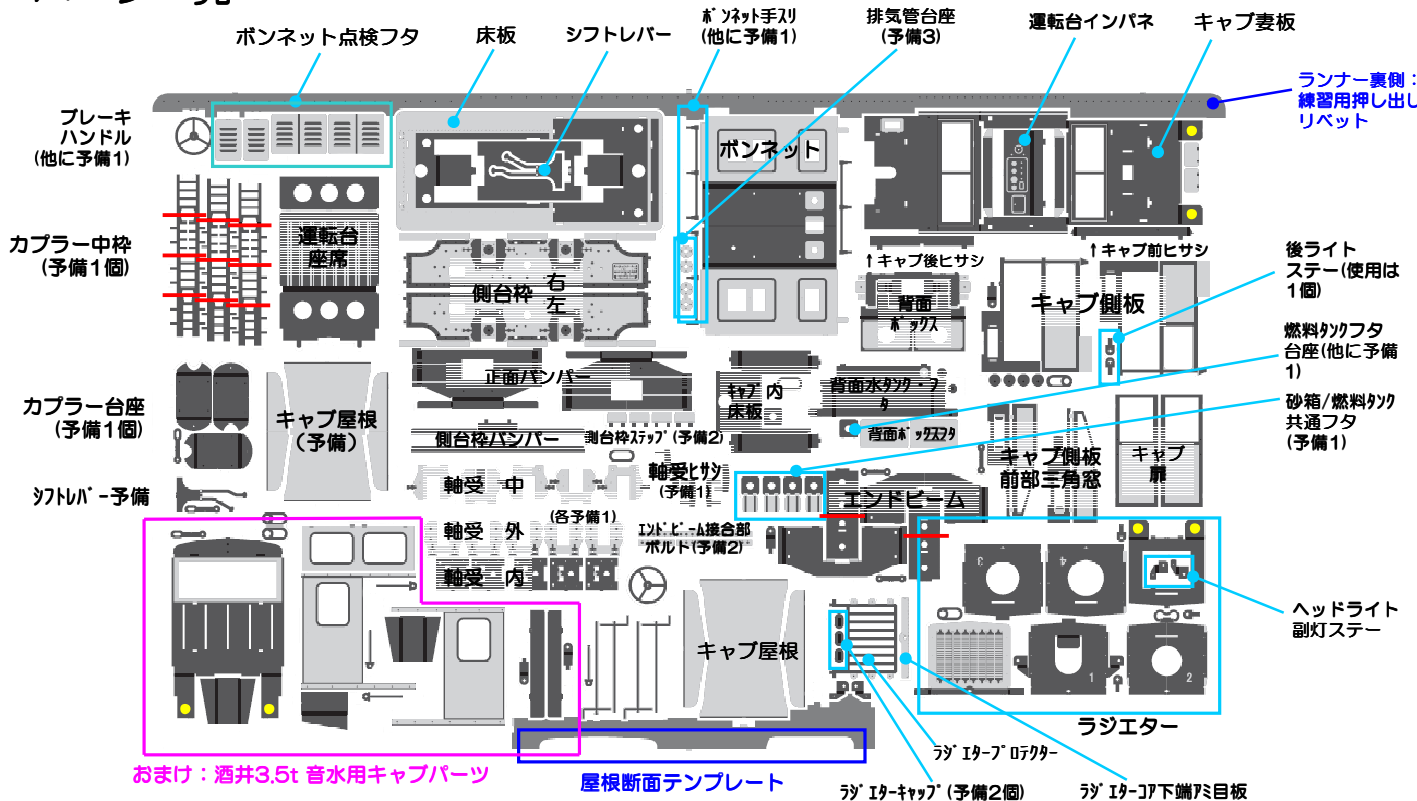
・タップ立てが必要な箇所があります。**M1.2のタップ**をご用意下さい。

・客用扉裏面には、手スリの追加工がしやすいようにポンチマークがあります。

・塗装は脱脂洗浄、プライマーで下処理ののちおこなってください。実物の色は、保存車が薄いブルーですが、現役時代の色は明確でないとのこと。いずれにしても、好みの色で仕上げてみてください。

※注意：このキットは製品の特性上ある程度の経験者向けであり、小さなお子様や工作知識のない方には適しませんのでご留意下さい。

パーツ一覧



▲上の図はエッチング板のランナーとゲート(バリ)を除いた状態を示しています。これを参考に、位置決め用の突起をバリと間違えて落とさないよう注意してランナーから切り離して下さい。赤いマーキング■の部分は、スジ彫りが外側になるように折り曲げます。黄色の丸印●(ボンネット/キャブ後妻下ステー)にはあらかじめM1.2のタップを立てます。特に記載のないパーツはおまけです。(ライトステー類、ピン/リンク類、運材台車用カギ型ブレーキハンドル)

■別途購入が必要なもの

◎ 動力：アルモデル B4007 アルパワー-N-10.2S（熊本・内大臣の野村式DL用）※Wメタル製ヘッドライト×5個、M1.2x2mmピス×6本、M1.2x4mmピス×2本（他社が取り付け用）付属

◎φ0.8パイプ（排気管用）

◎真鍮線 φ0.4（ブレーキハンドルシャフト、ラジエーター固定ボルト植え込み用）

◎真鍮線 φ0.3（キャブに手スリ追加の場合）

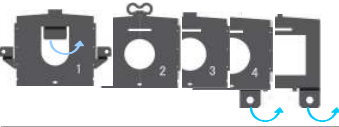
★カブラー：付属のピン/リンクないしはモデルワゴンの朝顔用ピン/先割れリンク使用。他社品の場合はケーティ-#2004ないし各社朝顔型が使用可。

車体組立図

●ラジエーターの組み順



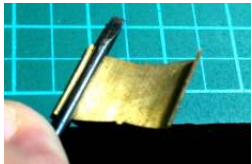
ラジエーターは正面のコアを含め6枚のパーツを重ねて作る。コア正面両端のプロテクター固定ボルト（計6ヶ所 真鍮線植え込み）は好みで。



●屋根の曲げ方



(1) 屋根板側面がわの端から1.5mm位の場所を目印に万力ないしは目玉クリップで啜え、強く折り目がつかない程度に70度くらい曲げる。



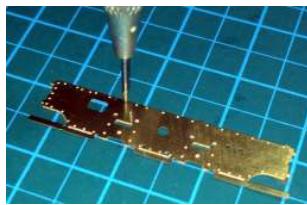
(2) 肩の内側にφ2位の丸棒（ドライバーないし爪楊枝）を当ててカーブを調整。屋根天面の裏側を指の腹で軽く押し、全体のカーブをつける（ランナーのテンプレートを参考に）



(3) 表面は下から1.5mm位のところで万力にくわえて折り曲げ、最後にハンダ付で組立て。

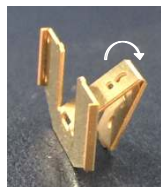
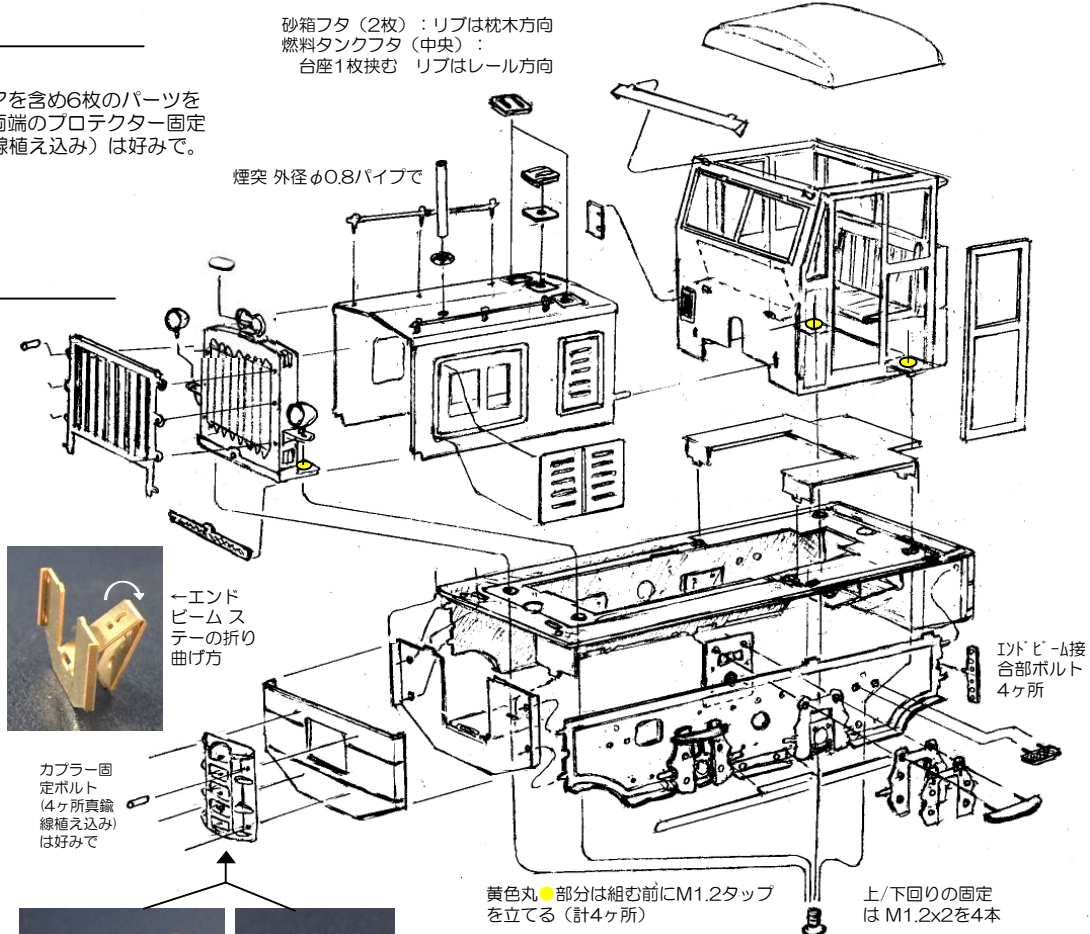


← 側台枠下端のリブの曲げ方
↓ 側台枠の縁取りのリベットを再現したい場合はケガキ針等で裏から押し出し

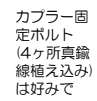


砂箱フタ（2枚）：リブは枕木方向
燃料タンクフタ（中央）：
台座1枚挟む リブはレール方向

煙突 外径φ0.8パイプで



← エンドビームステーの折り曲げ方



カブラー固定ボルト（4ヶ所 真鍮線植え込み）は好みで

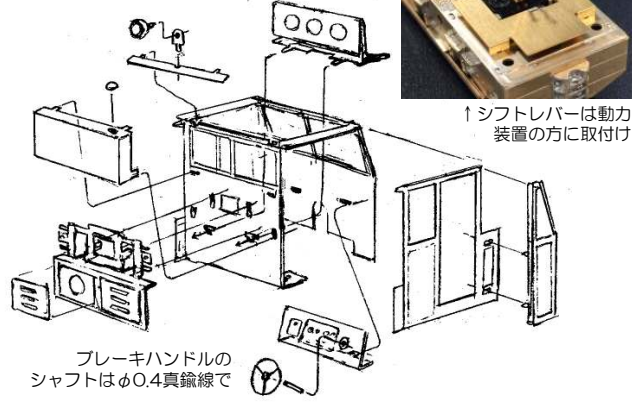
黄色丸●部分は組む前にM1.2タップを立てる（計4ヶ所）

↑ エンドビーム接合部ボルト4ヶ所

上/下回りの固定は M1.2x2を4本

背面側

キャブ妻板の部品はきわめてデリケートなので、箱状に組むまで扱いに注意



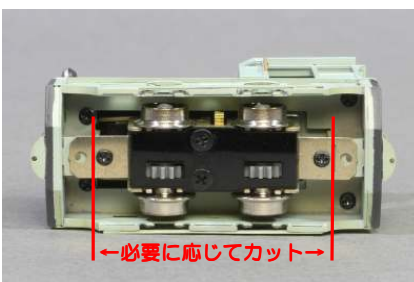
運転台座席

↑ シフトレバーは動力装置の方に取付け

ブレーキハンドルのシャフトはφ0.4真鍮線で

■専用動力の取付け方

アルモデル製専用動力は、モーターをボンネット側にして装着。車体との固定ピスはM1.2x2を2本使用（動力に同梱）。車体下部のステーの両端は、キットのものではなく他社製カブラー（ケーティ-等）を取り付ける場合にはカットする（右写真赤線部）。



← 必要に応じてカット →



おまけパーツには、昨年の『千頭/三塩の酒井3.5t』のキャブの追加バリエーションで、音水森林鉄道にいたL型車体機のキャブ部品（前面窓、側扉、後妻板）を盛り込みました（キャブ本体は『千頭L』を使用）。前面Hゴム窓と、背面の突放追突対策用プロテクターが特徴。